

イノベーション・エコシステム専門調査会第一回 意見書

令和 4 年 2 月 21 日

株式会社経営共創基盤

IGPI グループ会長 富山和彦

・まず、これから DX がさらに拡大加速し、そこに GX の破壊的なインパクトも押し寄せる時代環境において、我が国のグローバルビジネス領域における成長にとって、破壊的イノベーションを担うメインエンジンはスタートアップモデルであることを明確にしておく必要がある。

・既存の古くて大きな大企業群のグローバル成長は、国内外の強力なスタートアップの存在を前提にその破壊的イノベーションを自社の変容と成長のエネルギーとしていく探索力と、既存の事業群のキャッシュ創出力を磨きこみつつ成熟して収益力を失った事業や機能から迅速果敢に撤退する「稼ぐ力」の深化力との「両利きの経営力」にかかっている。

・いずれにせよ破壊的イノベーションの時代のグローバル成長のメインエンジンは、名著「イノベーションのジレンマ」が語る通り、宿命的にスタートアップ、ベンチャー企業群であり、既存の大企業はサブエンジンでしかありえないことを日本の産業界、金融界、アカデミア、教育機関の圧倒的な共通認識にする必要がある。

・次にかかるグローバルモードの破壊的イノベーションの生態系は、必然的にグローバルなものであり、「日本人の日本人による日本人のための」と言う発想ではまったく勝負にならないことも肝に銘じるべきである。

・日本と言う地域をホームとする、世界のベスト&ブライテストが集まる生態系を作れるか否かが勝負であり、それができなければ日本人のイノベーターのレベルも上がらないことは、今の五輪の姿をみれば自明である。いわば知の世界のビジネス五輪こそが破壊的イノベーションの闘いなのである。日本を母体とする PGA ツアーや ATP ツアーやプレミアリーグを今後有望な種目で作らなければならない。

・そこでまずは絶対にクリアしなくてはならないのが、世界のベスト&ブライテストにとって、人生のプライムタイムを送る場所として日本が魅力的である最低限の条件がクリアされていなくてはならない。

・そこでの最低必要条件は、

- ① 安全で快適な場所であること
  - ② 税制面で会社にとっても個人にとってもスタートアップフレンドリーであること
  - ③ 在留資格などの面でストレスがないこと
  - ④ 子弟の教育においてグローバルトップ大学への進学上不利にならないこと、  
そして当たり前だが
- ⑤ 研究者であれ、プロフェッショナルであれ、世界相場の報酬がネットでもらえること、  
技術系スタートアップではここに
- ⑥ 世界クラス（基礎研究レベルにおいても事業化意欲においても）の大学・研究機関、関連企業群（必ずしも大企業とは限らない）のクラスターの存在  
が加わる。

・政策的には上場環境、金融環境、規制環境などに目が行くが、グローバルスタートアップにとっては、その手の問題は本気になればグローバルに解決可能である。実際、北欧やイスラエルのように自国に市場がないベンチャーは自国のその手の問題はあまり気にしていない。あくまでも目は最初からグローバルな市場、顧客市場も、資本市場も、人材市場も、に向いている。

・日本国としては、まずは世界から日本に優位性のあるイノベーション領域にベスト&ブライテストが集まってくる基本最低条件を整備すること。現在の金の動きは才能ある人材が集まるところを世界中のリスクマネーが鵜の目鷹の目で追いかけている。mRNA ワクチンの成功物語はその典型である。

・その意味で日本は①（安全と快適性）はOK、⑤（大学改革）はまさに問題克服に向かって走り出したわけだが、②（税制）③（在留資格）④（子弟の教育）で劣位に立つと、結局、大したことは起きない。この3点で世界的に優位に立つことはイノベーションエコシステム形成の絶対必要条件である。新しい資本主義の時代、ESGの時代になってもこれは絶対変わらない。

・最初にグローバルクラスの人材集積ありき、これがDX×GX時代の成長戦略の基本であり、これがイノベーションエコシステムの根幹的な成立要件である。